

第4回 ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会 議事要旨

【日 時】平成30年2月2日（金）10：30～12：00

【場 所】厚別区役所2階A会議室

【参加者】9名（2名欠席）

所属/肩書	氏名（敬称略）	
あつべつ区民協議会代表 （札幌市子ども会育成連合会厚別区支部長）	田中 昭夫	
あつべつ区民協議会運営委員長・厚別のにぎわい検討委員会委員 （北星学園大学 経済学部教授）	鈴木 克典	
厚別区ふれあい推進会会長 （厚別南町内会連合会会長）	牧野 弘志	
厚別区庁内連合会連絡協議会会長 （厚別中央町内会連合会会長）	樋田 並久	
札幌市青少年科学館管理課長	罐水 憲一	
(株)札幌副都心開発公社 取締役総務部長兼財務企画部担当部長	川尻 寿彦	(欠席)
厚別中央地区 子育てサロンぴーちくパーク代表	西根 由美子	
厚別南地区 子育てサロンぼろキッズ代表	木村 和香枝	
新さっぽろ冬まつり企画会議代表/あつこい実行委員会委員 区民まつりへのご協力（厚別南町連）	波多野 達郎	
北星学園大学 経営学部経営情報学科4年	片山 由貴	
北星学園大学 経営学部経営情報学科4年	村上 舞	(欠席)
事務局		
厚別区市民部総務企画課長	國島 徹	
厚別区市民部地域振興課長	綿貫 真人	
厚別区土木部維持管理課長	桑島 健	

【議事・進行】

1. 第3回あり方検討委員会の振り返りについて

- 事務局より、資料1に基づき議事録の内容を説明

2. ふれあい広場あつべつ・科学館公園の再整備計画（案）の説明

- 事務局より、資料2に基づき説明

3. 副都心団地3号線（科学館公園・G街区）の安全確保策の説明

- 事務局より、資料3に基づき、副都心団地3号線における道路管理者（厚別区）が施行する安全確保策について説明

4. 再整備計画（案）等に関する意見交換

■ 再整備計画（案）について （⇒は事務局の回答）

- ・ 限りある資源の中で、最大限に考慮できていると思う。
- ・ 「視認性の確保」が重要と捉えていたが、その点も反映されていると思う。
- ・ ふれあい広場と科学館公園の間は、全面的にフラットにできるのか？
⇒ 基本的には、次年度の設計の中で測量等を行い、詳細な地盤高等を確認していきたいが、ふれあい広場よりも科学館公園側（特に南側）の地盤高が低いのは明らかであることと、既存の樹木により高低差が解消しきれない部分も出てくると思うが、階段状のベンチを設けるなど、高低差を活かした整備なども検討し、広場・公園のつながりを創出していきたい。
- ・ 視認性と使い勝手の良さが向上すれば、全てフラットでなくても良い。
- ・ 凶面だけでは読み取れない、電源設備の配置・延長などは、設計段階でも意見を聞いてもらいたい。
⇒ 大まかな方向性はこの計画でお示ししたとおりだが、細かな部分については、皆様から意見をいただけるような場を設けることも検討したい。
- ・ 広場・公園内の遊歩道整備を希望していたので少し残念だが、快適な歩行空間の整備をするなど、工夫の中で人通りによるにぎわいを創出してほしい
- ・ 遊歩道でなくとも人通りによるにぎわいは達成できると思う。快適な歩行空間を整備してほしい。
⇒ 仮に広場内まで遊歩道を設けた場合は、イベント時に通行を制限する状況が生まれる可能性が出てしまうこと、また、本公園の位置・性質上、一般的な街区公園のような散策路を全体的に設けるといったことは馴染まないと考えたため、園内の快適な歩行空間の整備で人通りによるにぎわいを創出していきたい。
- ・ 計画の内容は素晴らしいと思うので、是非実現してほしい。2020年は残り60%の整備を行うこととなっているが、予算的には未定となっている。しっかり要求してほしい。
⇒ 限られた財源の中で最大限の努力をしていきたい。
- ・ 設置される休憩設備（例えば公園南側にあるロングベンチなど）は、冬場は撤去できないのか？
⇒ 基本的には、公園設備として常設となる。また、南側は、ロングベンチのようなもので高低差を解消するという目的もあることから、常設としたい。

- 本計画（案）を広報さっぽろの厚別区版に載せたらどうか？
⇒ 2月号に、再整備事業を行っていることは掲載した。ただ、紙面の都合上、計画案の中身まで掲載することはできなかったため、区役所や区民センター、まちづくりセンターに配架する予定であることをお知らせした。
- この図面については、子育て関係者などに見せて問題ないか？
⇒ この後意見募集も実施するため問題ない。
- 公園南側樹木や広場・公園の隣接部分について、必要な樹木の伐採や間伐を行うことで、広場・公園の一体利用促進及び効果的な活用促進に資することができるものと評価できる。ただ、冬場の利活用で一番困るのは、除雪の問題だと認識している。今は、広場から公園側（逆も然り）に一般的な除雪車両が通り抜けられるスペースがない。また、公園南側とパーゴラの間も狭くて除雪できない。秋冬の利用率の向上、また一体利用や効果的な活用を目指すのであれば、この課題を解消するべきと思う。
⇒ 次年度以降、設計のために本格的に測量等を進めて行く。その中で、広場・公園をつなぐ通路幅の確保や、公園南側とパーゴラ間のスペース拡幅など、可能な限り実現に向けて努力したい。

■ 安全確保策について

- 区が実施できる安全確保策については理解。ただ、G 街区が開発されると将来的に多くの来訪があることは明らかだが、北海道警察はその点も含めて横断歩道設置ができないと考えているのか？
⇒ 横断歩道設置については、あくまでも「現状」どうなっているかということが基準であると聞いている。引き続き、北海道警察に要望を続けていきたい。
- 土日において、青少年科学館駐車場に入る車列ができる。G 街区でも何かしらのイベント等で、車列ができるような状況にならないか。
- 大学駐車場は基本職員等の利用になると思われるため、車列になるようなことはないのではないかと思うが、そこは G 街区の事業者にも現状を踏まえた検討をしてもらいたい。

■ 最後に（事務局）

- 引き続き、限られた資源の中とはなるが、最大限の効果を目指して整備内容等を検討していく。
- 今回ご確認いただいた内容をもとに、区のホームページへの掲載、また区役所・区民センター・区内6か所のまちづくりセンターに配架して、約1か月間市民の方の意見を募集する。
- 次回は、意見募集の結果と公表する計画の最終案について、皆様にご報告したいと考えており、3月中旬頃に開催したい。

以上